

昭和48年1月13日第三種郵便認可
HSK通巻517号
発行日/2015年4月10日(毎月10日発行)
編集人/白老町手をつなぐ育成会 佐藤春光
北海道白老郡白老町字萩野310-110
TEL(0144)83-3537

HSK

会報/223
発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)
定価/1部100円(会費に含む)

2015.4月号

ほほえみ



猪股諒

セラームーン

白老町手をつなぐ育成会

北海道手をつなぐ育成会の60年

今年、北海道手をつなぐ育成会が結成されてから60年という節目の年にあたります。60年前に先達は何を考えどんな思いで育成会を創ったのでしょうか。60周年記念誌を編集する仕事を授かり、歴史を紐解いていくと、すばらしい先達の知恵に接することができました。北海道手をつなぐ育成会結成時に集まった城戸幡太郎（初代会長）、奥田三郎（2代会長）、谷口憲郎（3代会長）氏の思いは、現在でも輝いて見えます。この3人は日本の障がい者教育や療育におけるさきがけだったのです。

昭和30年（1955年）3月に、精神薄弱児育成会（当時の会の名）機関誌第1号が発行されています。そこでの3人の主張を載せさせていただきます。

論 説

事実を事実として

理 事 奥田 三郎

現実を、冷静にありのままに受け取ることは、問題が何であろうと、いつでも第一に必要な事です。学問をするにしても、まず事実を明らかにし、正しく捉えて記述することから始まるし、商売をする時も何か生産事業を始めようとする時にも、それに必要な設備や資材、必要人員、原料などの計算はもちろんのこと、需要がどれだけあるか、それへの供給の方法は等、現実の事態を明らかにし、綿密に考慮することから始まります。

この事実に対する認識に誤りがあると、見込み違いが起こってきて、色々の失敗や損失を招くことになります。学問や事業の上での失敗は、それでもまだ初めからやりなおすことが出来ますし、失敗を機として前より大きい仕事を再建したという例も、私たちの近くにはみられます。

しかし、これがやりなおしのきかない場合にはどうでしょう。その場合、事実への認識不足、見込み違いがその人の運命を狂わせてしまうことになるのです。

世の中には、その性質上どうしてもやり直しのきかない事柄があります。歴史とか、個人の生涯とかがその代表です。

日本は、20年前、世界や東亜に対する現実の認識を誤って、日支事変から第2次世界戦争に突入して、敗戦を招き、今日も尚その苦杯をなめています。敗戦を契機として起こった基本的な人権尊重、民主主義、平和等の思想が、長い眼でみると、却って将来の日本に、より偉大な文化と幸福とをもたらすかもしれません、歴史のねじを逆転させて、20年前から再出発することは不可能です。歴史は、その性質上、取り返しのつかないものなのです。

私たち個人の生活も、同じく歴史の一コマです。私たちの後継者たる子ども達も、みなそれぞれに歴史の一コマを歩み、織りなしています。そうして、その子達百人中には、精神薄弱の子が必ずや3人位見られる筈です。どの親もわが子には自分の果たし得なかった希望を託し、その生命がすくすくと伸びて、幸せな有意義な生活を営むことを念願するものですが、さて、この念願を実現するための配慮はどうなっているでしょう。その為には何よりも、**自分の子の個性や才能についての事実を冷静に知り、同時に社会的環境の色々の条件についての事実を十分に認識することが、先ず必要になります。**

正常な発育をしている子どもについても必要な、この事実への認識は、精神薄弱の場合には尚一層の切実さを以て要求されます。何故ならば、精神薄弱は、その持っているハンディキャップのために、その将来の生活設計への立案が、一層困難であるからです。困難

な仕事には、一層綿密な事実の計量が必要だからです。

この事実の認識と計量が、一般にはどうなっているでしょうか。私の知っている限りでは、驚くほど認識不足であると言って差し支えないようです。認識不足が、それだけの笑い話で済む場合は何でもありませんが、それが大切な我が子の上に、取り返しのつかない結果を生むのですから、大問題となります。

認識不足は、たいてい次のような形で現れています。

第一に、自分の子どものちえ遅れに気づいていない場合です。

第二に、気づいていても、なるべく軽く見ようとする事です。

第三に、何か非常に体裁の悪いことのように思って、なるべく人目につかないようになるべく人に知られたいと努めることです。

第四は、そのうちに何とか伸びるだろうとか、学校に行っていれば何とか格好がつくだろうとか、希望的観測をすることです。

第五は、どうせ仕方ないとあきらめて放任することです。もっと色々数えられますがざっと挙げてみても以上の5つがすぐ浮かび上がります。

そして、多くの場合には、この5つが色々な形で混じり合って、その子に対する考え方や態度を支配してようです。今、この一つ一つにつき申し上げる余白がありませんが、殊に第三の秘密主義と第五の放任とがよくない影響を与えることを注意したいと思えます。

ちえ遅れの原因は色々あり、中には遺伝性と思われる場合もありますが、仮に遺伝性としても、ちえ遅れの実事を隠すことによって、どんな利益をその子に与えることが出来るでしょう。親が肩身狭く思う態度が反映して、それでなくても劣等感をもち易い子が益々いじけることになりがちなのです。親は体裁や面目にとらわれなくて、冷静に、事実即して最良の方法を考えなければなりません。

第五の放任は、大切なよい学習の機会を空しく過ごさせる損失の上に、放任によって培われ易い悪習慣が附加してくることによって、二重の損害をその子に与えます。

仮に親の認識不足が全くなかったとしても、未だ残された大きな問題があります。それは、ちえ遅れの子は、今のままの日本の社会的環境では、個々の親の努力だけでは、十分な教育も受けられず、成人後大部分は落伍者として、みじめな生活に陥る怖れが多いことです。日常教育相談にあたっている私たちは、我が子の将来を案ずる真剣な親御さんと共に、どれ程教育施設の不備や適当な職場の見当たらないことに嘆息したことでしょう。又、犯罪者の更生保護の事例研究などにおいて、早期に教育し補導したならば、決して犯罪などに陥らなかったに相違ない例に、どれ程多くぶつかることでしょう。敗戦後、日本は貧困に陥っています。 (中略)

この様に、社会的に働きかけるためにも、全ての親が手をつなぐことが大切です。北海道育成会は出来上がったばかりですが、これは、一方において大きな社会運動の地盤にもなりましょうし、他方においては、不幸な事実思い悩む者同志の慰め合いの場ともなりましょう。

事実を事実として受け取ったとしても、さてその事実問題を最もよく解決することは、個々の人の力の限界を越えています。私たちは冷静な態度で、従って変な見栄や体裁にとらわれなくて事実に基づき、問題をさらけ出しましょう。そうして、精神薄弱に対する現在の不備を、一歩ずつでも補正して行くように努めましょう。これは、大局的に見て親と子の利益になるのみでなく、国家全体としても非常な利益になることは明らかです。簡単に計算しても、約九千万近い人の3%即ち270万人が適所を得て安定するのです。

(※60年前の文章ですので、表現はともかく精神を読み取って下さい。)

ふろんていあ♡メール
Frontier

就労支援施設
フロンティア♡MAIL

2015年4月号

〒059-0922
白老町萩野 310-110
TEL・FAX 0144-83-3537

お別れ会 ～旅立ちのとき～

3月31日、フロンティア登別のオープンにともない移動する利用者の方とのお別れ会を開きました。

門松さんの司会で始まり、施設長からの言葉がありました。『フロンティアがスタートした頃に比べ現在のように大きくなった背景にはたくさんの後援会員さんの応援と支えがあったから、通信も将来は1000通発行するぞ』と口に出していたが、思いは心の中だけでなく言葉にすることで実現させて行けるんだ』という話でした。

利用者の方には「今が始まりの時」「工賃を最高で5万円に」「他の人を思いやれる人になろう」など新しい年度に向けての目標が掲げられました。顔を上げて背中を伸ばして前を見ようとのことでした。

次に、フロンティア登別へ行く人の紹介や一言があり代表で菅井麻貴さんから頑張り表明のあいさつがあり会長の佐藤昌義君からは送る言葉がありました。

一人ひとりにプレゼントが手渡される頃にはみんなの目にも涙がひかりました。

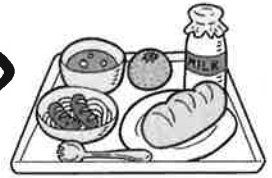


山下さんのギター演奏で「バラはあこがれ」と「一人の小さな手」の合唱タイムでは菅井さんの鍵盤ハーモニカと片山大基君のハーモニカの披露もありました。

最後にみんなで外に出て記念撮影をしてお互いそれぞれの場所で頑張ることを約束し合いました。



あったかいんだから♪ ～厨房編～



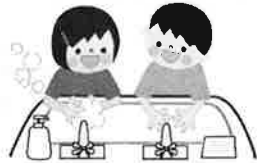
毎日ひたひたに汗しながら私たち利用者と職員の日々の昼食を担当してくれている石河さんと田淵さん（片石さん）今回はお二人にインタビューも交え食育の面からも給食について考えてみました。

昼食は出されたものを自動的に食べるという行為になりがちな時間ですが、食事のマナーを身につけたり、栄養と健康の関係を知る時間でもあります。

石河さんと田淵さんは作り終えてから、利用者の方一人ひとりの把握をしていて大変な作業ですが、苦手な食材を抜いたり、違うものを補ったり量や切り方も個々に対応してくれています。とても気を使う瞬間でもあると話してくれました。

限られた時間の中でフル回転して調理しているお二人の脊にいつも感謝です。

また、忙しい中で、お盆を受け取りに来る利用者の方の表情や様子にも細やかな気配りで声をかけてくれます。給食は食べ切った満足感やみんな食べる楽しさを味わう一日の大切なコマです。そして食事の前後での手洗いや歯磨きなど衛生面での行動にもつながっています。



最後にお二人に『仕事をしていて何かうれしいと思うことはありますか？』と尋ねますと『みなさんがいただきます』と言ってお盆を持って行きたくさん食べて『ごちそうさまでしたと下げてきてくれる時とってもうれしいんですよ』と笑顔で答えてくれました。

これからもうよろしくお願ひします!! いつもごちそうさまです。

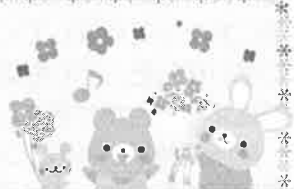
山口純子さんお疲れ様でした

この3月で退職されました。平成16年から育成会の仕事としてエスパスの利用者の支援やレジの管理を担ってきました。

その後、たまごやグループホームを中心に配達や通院の付き添いなど多岐に渡る仕事で利用者の支援をしてきました。

利用者みなさんがお礼のメッセージを書き、エスパスと一緒に仕事をした小関さんが、代表で色紙を手渡しました。

時々、顔を見せて下さいね。



またまたほのぼの荘からのお願い!!

2月号でもお願いしましたが、今回は洗濯機 & 掃除機をお譲り下さい。困っておりますので宜しくお願いいたします。



着替えについて

暖かい季節に向かいます。汗をかいた後の下着やTシャツの着替えなどそれぞれ必要な物を準備したり、雨の日の替えなど自分で準備できる人は自分で考えて用意しましょう!

お家の方の声かけも宜しくお願いします。

EM菌入・糞入発酵鶏糞

好評発売中!!

20kg入 ¥500・10kg入 ¥300

お問合せ…TEL: 0144-83-3537 (担当: 藤田)

いきいきと楽しく働く場をめざして

2015年4月号

フロンティア登別通信

〒059-0463
登別市中登別町88-2
TEL/FAX
0143-83-7878

4月1日フロンティア登別オープン!!

心地よい春の香りがただよい始めた4月1日フロンティア登別がオープンしました。

みんな新しい作業所に大喜びです。新しい仲間も3名増え、これからいよいよ本番という感じですがその前に4月5日に予定している開所式と開設記念コンサートに向けて大忙しです。司会やる人、はじめのことばやおわりのことばを言う人、代表であいさつする人などどんな式典にするか話し合いをしたり。売店の開店に向けての準備やまだまだ足りない作業所の備品や設備を運び入れる作業など所員のみんなも加わり大忙し。オープン初日のお昼には、室蘭・登別などで聞けるFM局FMびゅ～さんの番組の生中継が食堂で行われ所員の打矢さんがFMデビュー～!!しました。

フロンティア登別開所式典 & 開設記念コンサート(^^♪

登別の障害を持つ人たちで作る和太鼓グループ「湯乃華太鼓」の迫力満点オープニングではじまった開所式。登別市長をはじめ関係機関・団体やそして、フロンティア登別を開所するにあたって応援してくれた沢山の人たちが出席してくれました。本当にどうもありがとうございました。とても緊張しましたが所員・職員みんなで一所懸命にがんばって無事に式典を終えることができました。

開所式典終了後のコンサートにも中登別などの地域の皆様もたくさん参加してくれて、会場はとても寒かったけどもJUNCOさんの歌声で心はHOTになりました。





喫茶ハーモニー10周年記念セール!!

10年振り返って!!!

登別市手をつなぐ育成会が平成17年から、喫茶ハーモニーの運営を始めて10年がたちました。障がい者の就労の場として、障がい児・者・親たちや地域の人たちが気軽に集える場所になってほしいとの願いを込めて「ハーモニー」と名付けられました。

開店当時は、障がいを持つ子のお母さんたち4名が手探りでの中で、ほぼ無償ボランティアで懸命に働き細々ながらもどうにか運営されてきました。

その後、みんなの努力で障がいを持つ人の働く場・実習の場として定着していきましたがなかなか経営状況が厳しくなり、平成21年よりフロンティアと協力して運営してきました。

昨年からは施設外就労の場として現在、5名のフロンティア登別の所員が交代で明るく働いています。

育成会の会員さんや地域の皆さんなど応援していただいた沢山の人たちのおかげで喫茶ハーモニーは10周年を迎えることができました。本当にありがとうございます。10周年を迎えるにあたり4月22日(火)~24日(木)の3日間オープン記念セールを行います。

みなさん是非、登別市民会館内にある喫茶ハーモニーへいらしてください。22日~24日の11:00~14:00時間帯にはな、な、なんと!!!かつ定食、牛丼、半ラーメン・半カレーの人気メニューがサラダ・コーヒー付きで500円!!!!というジャ○ネットの社長もびっくりの価格でご提供させていただきます。23日にはご来店し、お食事いただいたお客様先着30名様にフロンティアの卵(2個)プレゼント!!喫茶ハーモニーにてみんな明るく元気にご来店をお待ちしています。





HSK ほほえみ

昭和48年1月13日 第三種郵便物認可
発行日 2015年4月10日発行(毎月10日発行)
HSK通巻番号517号
編集人/北海道白老郡白老町字萩野310-110
白老町手をつなぐ育成会 佐藤 春光
TEL 0144-83-3537
会報/223号
発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)
定価/1部100円(会費を含む)